

Partner

パートナー Vol. 47 2014.11 蕨市

蕨市男女共同参画情報紙

パートナーとは…

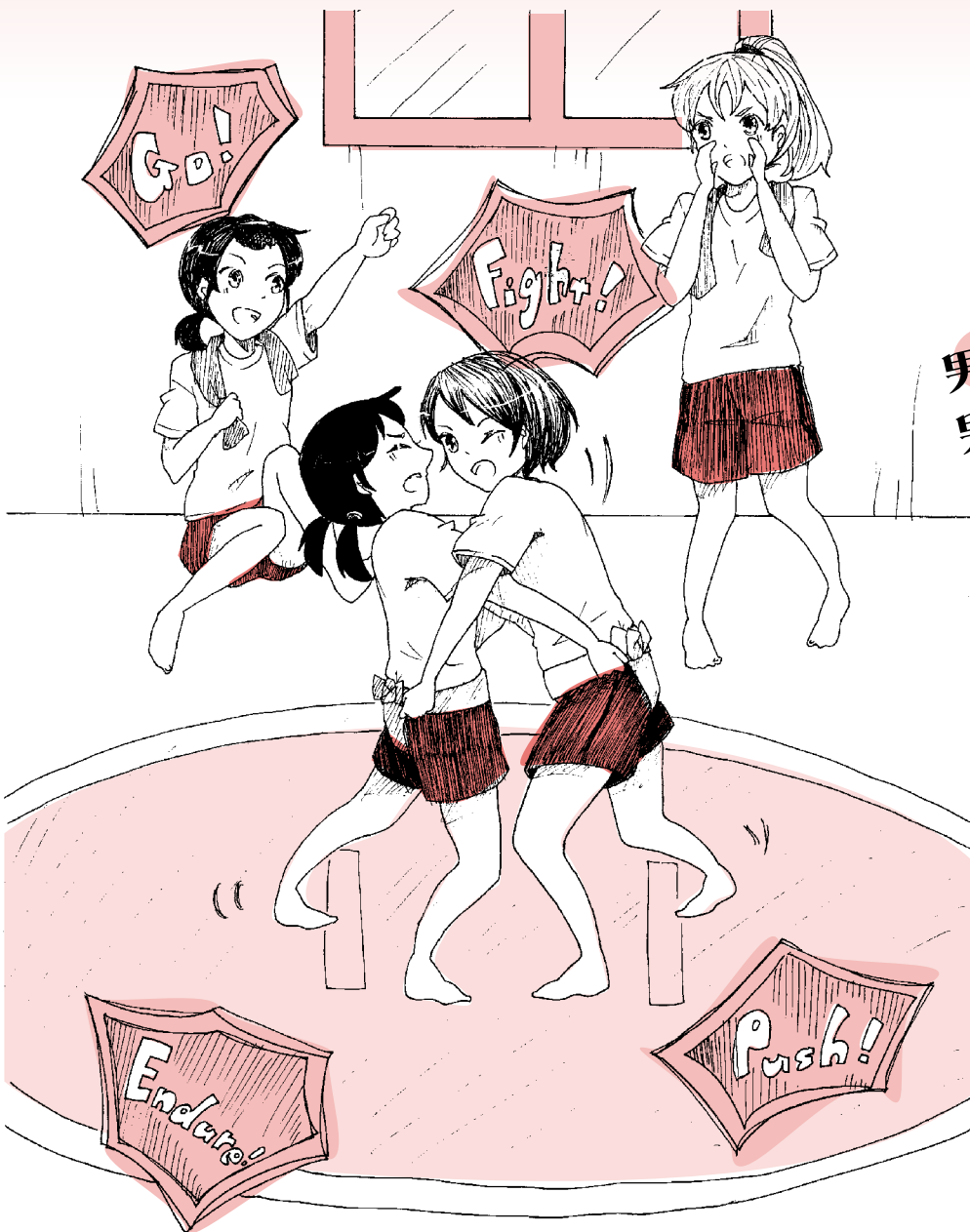
女性と男性が共に明るい地域社会を築き上げようという意味と、市民の皆さんと市が共に手をたずさえていこうという願いが込められています。

特集

男性にとっての
男女共同参画

男50歳から考える人生設計

どう活かす！そのチカラ！



イラストは、県立蕨高校漫画研究部の皆さんによるものです。

P-2~4 特集 男性にとっての男女共同参画

P-5 パートナーシッププラン（第2次）、部活訪問、わらびのイクメンをさがせ！

P-6 インタビュー けやき保育園 園長・理事長 萩原 裕子さん

P-7 インフォメーション

P-8 イクメン・料理男子 フォトコンテスト結果発表

まだ、しっかり働きたい！

ボランティア



おまみち 馬場道夫さん(68歳) 北町在住

2回の定年と地域デビュー

東京消防庁に42年間勤務し60歳で定年を迎えました。経済的理由ではなく「まだ働きたい」という強い希望があり、67歳まで大学で救急救急学級の講師として働きました。東京消防庁、大学の講師と働いたのが定年、2回迎えました。

大学を退職した後も、働く意欲があったのでハローワークに行きましたが、職歴からボランティアを勧められました。20年間住んでいる蔵で、どんなボランティアができるか市民活動推進室に相談したのをきっかけに、今は、蔵市にきわいまちづくり連合会のボランティア会員として、買い物やゴミ出し、病院の付き添いなど高齢者のお手伝いをしています。他にも、地域包括支援センターで募集していた「元気アップ隊」で体操教室のお手伝いをしています。

これから現役で

94歳の母親の介護もありますが、自分の健康も大切なので外出を心掛けています。4年前に妻が亡くなり、家事もするようになり、70歳からいまでは働きたいと思っています。これから定年を迎える方には、定年後は、地域に目を向けることが大切だと伝えたいですね。知り合いも増えますしね。

仕事の延長に趣味を見つけた！

NPO



おおさわはじめ 大澤元さん(68歳) 南町在住

NPOに夫婦で所属

県庁の農林関係の部署に約40年勤務、県の試験研究機関では、杉、ひのきなどを害虫や病害から防ぐ手段や早く育てる方法などの研究をしていました。

仕事を通して自然に興味を持ち、現役中に自然観察指導員という資格を取得しました。現在はNPO法人自然観察指導員埼玉

に夫婦で所属しています。

平成17年には、わらびネイチャークラブを作り、そこに4年ほど携わっている中で、蕨市民公園の樹木プレートを作成したり、荒川河川敷の植生調査の依頼を受けたりしました。また、東公民館の青空とみどりの教室の講師の一人として年間10回ほどの講座に参加してきました。最近は、講師や調査の依頼がないため、散歩しながら自然観察をして、自分のブログ『自然ふれあい記』にて公開しています。戸田市には野生のきつねがいたり、自宅の庭にハクビシンが出たりしますよ。

同じ趣味を持つ仲間を！

以前は、わらびネイチャークラブに所属していましたが、解散してしまいました。だから県南部にでもネイチャークラブのようなものがあれば参加したいです。ただ観察するのではなく、外来種などを排除したり、以前のような状態に戻していくための活動もしたいが、一人だと出来ず、自分が新しく会を発足させたりするだけのエネルギーがないので、できれば作られた会に参加したいです。

私には自然観察という趣味があったので良かったです。サラリーマンなどは、地域との関わりが希薄だと思うので、リタイア

どう活かす！そのチカラ！

男50歳から考える人生設計

平均年齢は60歳ですが、定年を過ぎても自分の力で生活できるように準備をしておくことが大切です。

したら地域にどこかお世話の地域活動は必要だと思います。同じ趣味を持つ仲間を近くへつなぐのもいいですね。

早期退職で次のステージへ

早期退職



なかむらかずひろ 中村和弘さん(62歳) 中央在住

自分のペースで生活する

外資系コンピュータ会社に勤め、57歳で早期退職しました。50歳くらいから定年後を意識し、地元でボランティア活動も始めました。現在、日本語学校教師、シルバークリニック、その他電気系の資格を生かした非常勤の仕事やボランティアを組み合わせています。日本語教師養成の学校だけは早期退職後に通いましたが、電気系の仕事は学生時代に取った資格を生かしています。非常勤の仕事は自分のペースで出来るのが魅力です。

趣味・仲間・地域

地域で風景水彩画と中国語を習っていて

家事の大切さに気付いた

ガジメン



さかたしゅうへい 阪田昭平さん(71歳) 南町在住

定年後、待っていたものは

44年間金融機関に勤め、62歳で定年を迎えました。自由を満喫し家で「のんびり生活」をのんびりしていたら、体重が増え健康診断の結果も悪くなってきました。これはまずい！と思い、妻と家事分担をし、さらに規則的な生活を送れるように働くことにしました。

家事と仕事

家事は、サラリーマン時代は妻に任せ

ばなし。罪滅ぼしの気持ちもあり、男の料理教室に3年間ほど通いました。最近「自立」を意識し、衣・食・住に区別して、生まれ育った地域でのボランティアも加え、できることのリストを作っています。洗濯物をたたんでしまう。買い物はほぼ毎日妻について行き、説明を聞きながら買う。換気扇の掃除や障子張りなどだんだん増えています。妻ができない手のかかることを、自分からさりげなくする。これが私の「家事美学」。命令されてするのはイヤなんです。(笑)

働くことについては、10年前市民会館にハローワークの出張所があり相談に行きました。たまたま、会館で夜の警備員を募集しており、月15日8時間働きました。70歳で2回目の定年。

その後、シルバークリニックに登録しに行き、錦町の富士見公園のナイター管理の仕事が決まりました。運が良かった！月7回くらいですが、ちょっと良い働きぶりです。夜の仕事を選んだのは、障害のある孫がいるので昼間はフリーでいたいのです。そんな思いを神様が汲んでくれたのかな。

男性は、50歳くらいから定年後のことを考えておく方がいいと思います。それにはまず健康しゅんじゅんですね。

妻たちのつぶやき



夫は外に行くより家でだらだらしていたタイプ。定年になって家にずっとずうーといたら私の方ががち切れてしまいそう。なので、夫が定年になったら家事を全部お願いして私は外に働きにいきまーす。

今まで別々だったので仕事をお互いにリタイアしてからは2人一緒に色々できたらしいな！と思います。

定年後の生活(経済的な事)をまじめに考えてもらいたい。20年をどのように過ごすのか？

永年働きお疲れ様でした。家族のためにありがとございませう。これからは、お互い時間を大切にしていきたい。私のことは、ほおっておいて下さい。

ずっと家にいるなら、私の部屋が欲しいです。顔を合わせたくない時もあるのです。

主人はてんや物を好きではない、自家製の調理を好みます。しかし毎日の献立を考えるのが面倒なので、忙しい時は、てんや物をとってほしいと言って欲しいです。ストレス解消に友人とたまには飲みに行きたいので、一ヶ月に一度は遊んでもいいよと言って欲しいです。

退職前に今考えていることを話してほしい話を聞いてほしい。今後どのように2人で生きていくのか話したい。

一家の働き手の立場は逆転しました。それなのに炊事洗濯掃除は全部妻。夫は現役通りでTVは通りません。主夫が当然なので心を入れ替えて家事に励んでください。せめて庭木の剪定や草むしり、水やりくらいやってください。

我家は同じ年なので、一緒にリタイアとなります。いつもあまり会わないのに、ずーっと一緒にいられるものなのか大変不安です。

自分が60歳を過ぎてしまった。そしてこの様なアンケートを書いている。新婚の時とは違うけれど、これからまた2人きりの生活が始まるんだ。三度の食事を一緒に毎日。私自身が楽しく献立を考えていきたいいなあと思います。

パートナーとして申し分ない人です。元気で明るく楽しく暮らしていけると確信しています。これからのおまけの人生感謝の気持ちを忘れず過ごしてゆきましょー！！

妻たちの本音

夫婦で語るアンケート結果

妻 「やっぱり、健康が一番よね。元気でなくちゃ趣味や生きがいは持ちにくいし、働けないかもね…。」

夫 「それはそうだ。だけど、毎日働くのはもういいかな。趣味を見つければもういいから。」

妻 「経済的には、元気がうちは働いてくれると助かるわ。お昼ご飯の支度だつて…。」

夫 「それって、矛盾してないか？のんびり好きなことして欲しいって言いながら毎日家にいたいって欲しがる。」

妻 「居ても世話が焼けるからよ。自分の身の回りのことは自分でして欲しいが多いのは当然！」

夫 「でも、急にはできないよ。今まで頑張ってる分、楽をしたいし…」

妻 「そう？でもね、趣味や仕事をする時間も大切だけど、一緒に生活する時間が増えるんだから、家事は分担して欲しいわ。私が先に逝くこともあるのよ。練習してね。」

夫 「おいおい、脅かすなよ。二人で旅行にも行きたいんだから。」

妻 「たまにはいいわね。でも、いつも緒つて息苦しいから趣味は違うものにしてね。自分だけの時間って意外と大事なのよ。」

いかがだったでしょうか。

いまや60歳定年は、男性にとってもくつかある通過点のひとつにすぎません。人生は、まだまだ続きます。

この長い人生を元気でいきいき過ごすには、ちよつと余裕のある経済力をもち、介護予防をしながら、自立した生活(できることを増やす)をめざすことなどがポイントでしょうか。

また、シングルになっても元気でいきいき過ごせる精神力も欲しいところです。

秋の夜長、妻たちのつづきやきと合わせて、アンケート結果を楽しんでいただければと思います。

お互いに家にいるという同じ立場になったら、出かけたとしても文句を言わないで欲しい。自分がやりたいと思う事を妻がやっていても快くOKして欲しい。

60歳の定年を迎えたら仕事はしない！と言っているがまだまだ元気がうちは仕事を続けて欲しいなあ。せめて、自分の趣味のお金は自分で稼いで欲しい。

いい感じの距離感を保ちながらお互い依存し過ぎず仲良く大事に生活していきたいと思えます。

私は貴方の母親ではありません。パートナーです。自覚を持って生きていく力を身につけてくださいな！

毎日にいられると、食事の世話が面倒なので料理などはじめてくれて私の分も作ったりしてくれたり嬉しいと思います。

夫のリタイアは20年は先の予定ですが、その頃には年金がいつから貰えるのか？リタイアが実際に何歳になるのか。全く予想がつかえません。まずはリタイアまで元気に働いて貰って、リタイア後夫婦二人で色々楽しめるよう健康でいて欲しいです。

娘の話ばかりでなく、妻の話もきいてほしい！

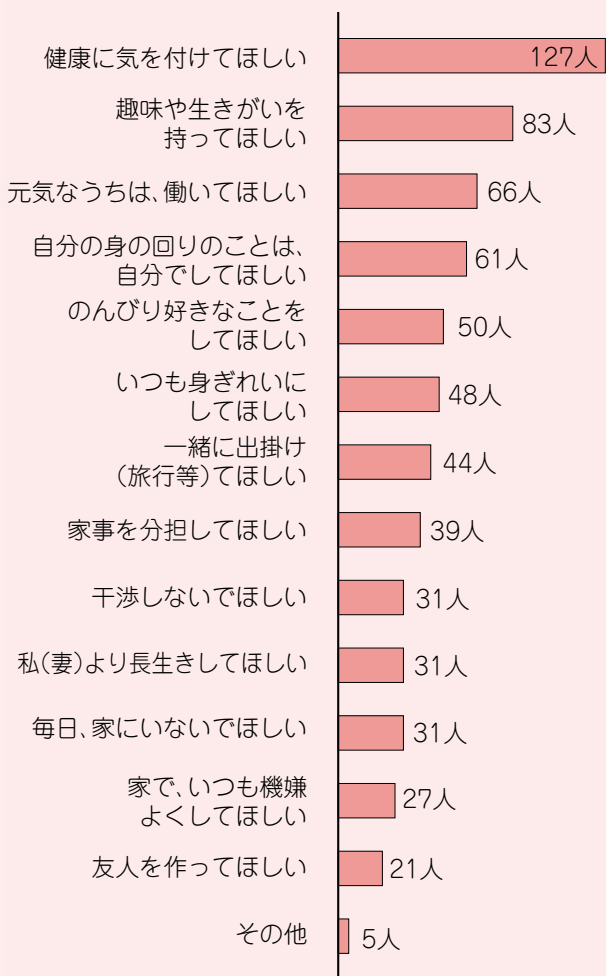
※つづきやきはアンケートより、原文のまま掲載。

アンケート

夫が定年を迎えることについて妻たちの本音を聞きました!

定年後の夫に求める事は？

※複数回答あり



対象 市内在住在勤の女性
 調査期間 平成26年6月12日～7月1日
 配布数 150枚
 回収 144枚

蕨市男女共同参画パートナーシッププラン（第2次）策定

男女が平等で自分らしく活躍できるまち蕨を目指して、平成26年から平成35年までの計画を策定しました。前回のプランから継続のものを含め下記を重点施策とし、新施策2つを盛り込みました。

〈重点施策〉

1. 男女間の暴力防止と被害者への支援
2. ワーク・ライフ・バランスの推進
3. 地域における男女共同参画の推進

〈新施策〉

男性にとっての男女共同参画

男性が仕事だけではなく、家庭や地域でイキイキと活躍でき、より暮らしやすくなる社会をめざします。

男女共同参画の視点にたった防災対策の推進

災害発生時は、固定的性別役割分担意識が強くなるといわれています。そのような状況を打破するために女性が防災対策を検討する場へ参画したり、避難所の運営など災害現場に女性の視点も入れることを推進します。

※プランは市民活動推進室、図書館、蕨市ホームページで閲覧できます。



わらびのイクメンをさがせ！ 番外編



北澤 仁さん
錦町在住(82歳)

孫の子育てに積極的に関わるおじいちゃん「イクジイ」を紹介します。

現在、隣に住む6歳と3歳の孫の保育園の送り迎えとママが迎えに来るまでの預かりをしています。送り迎えはパパ、ママ、ママのお母さんと協力してやっていますが、私が関わるのが1番多いです。自転車を使っているので、場合によっては2往復したり、雨の日は歩かせて、ということになります。帰宅後は妻と二人で遊ばせながら、一息つかせます。夕飯を一緒に食べることもあります。保育園の送迎はただただ孫がかわいくて、子どもの純粋さがストレートに伝わってきますね。

若い母親たちは本当によくやっていると思いますよ。今や若い女性は社会の立派な戦力です。優秀な人もたくさん見てきました。でも育児も家事も、では負担が大きすぎますよね。少しでも助けになればと思ってやっています。高齢者ばかり増えて子供たちが年々減っていくのは淋しいです。75歳まで仕事をしていましたが、遅い孫だったことで「イクジイ」になれたと思っています。週末は夫婦それぞれ趣味を楽しんでいます。しばらくは孫育てを続けられそうです。

部活訪問 すもう女子編



鎌田 瑞葉さん
南町在住(7歳)

蕨市の相撲の歴史は古く、江戸時代に蕨宿で相撲の興行をした記録があり、昭和42年の国体では、相撲競技の会場になりました。今回は、蕨市相撲連盟に女性で一人だけ入部し、相撲をしている女の子を紹介します。

始めたきっかけは？

おにいちゃん二人がおすもうをしているのを見て、やってみたくなりました。年中の時、蕨市相撲連盟に入部しました。

すもうは楽しいですか？

学校や幼稚園で一緒だったお友達とおすもうするのは、楽しいです。体の大きな子に試合で勝った時はうれしいです。

大会の成績はどうですか？

3年続けて、わんぱく相撲場所に参加し、全部優勝できて、とてもうれしかったです。おとし蕨市体育協会長の表彰を受賞したのは良い思い出です。

ますますの活躍を期待したいですね。また、端葉さんに憧れて女子部員が続々と入部するとうれしいですね。

「子育てを楽しむ」を 応援しています

保育園をはじめたきっかけ

夫の実家が保育園をされていて、義母が園長をされていました。結婚後、そこのお手伝いをしていましたが、義母が70歳で引返し園を任せられました。保育士の資格は、その時に取りました。

初めて保育園を手伝ったのは30年前。子どもを預けて働くことはある種のうしろめたさがある時代でしたので、園長になってからは「預けられてかわいそう」ということを何とか払拭しようと努力しました。教育的プログラム（英語、書道、体操

教室などに力を入れ楽しく学ぶ機会を作り、続けています。

30年前と今では、 保護者に変化がありますか

子どもに対する深い愛情は、変わっていませんね。お父さんの子育て参加が、本当に増えました。でも一番の変化は、地位や自己実現のために働くお母さんが増えてきたことではないでしょうか。しかも、お母さん同士が、「働く」という共通点で上手につながり、助け合っているんです。素晴らしいですね。



社会福祉法人 明伸会 けやき保育園
園長・理事長 はざわら 萩原 ひろこ 裕子さん

プロフィール

家庭保育室ひまわり保育園長を20年つとめ、平成22年から私立けやき保育園長に。蔵市次世代育成支援行動計画策定懇談会メンバー。

少子化なのに、保育園の 待機児童が多いのは

先程言いましたように、女性の意識や働き方が変わってきたことが、少子化や待機児童の増加に影響を与えていると思います。

子育てをリスクと考え出産を控える人、子育てと仕事を懸命に両立させ自己実現に向かおうとしている人など、今、女性の生き方はとても多様化していますね。でも、育児休業が取れても保育園に入らず復職できない場合もあります。これは単に保育園を増やせば良いということではなく、子育てに関する社会のしくみを変えていかなければ、解決していかないと思います。

経営者としての「苦労」は

職員が気持ちよく楽しく働くための努力をしています。保育士は女性が多いので、自分の子どものための休みを取りやすくなり出産などを機にライフスタイルに合わせて、正職員からパートタイムそしてまた正職員に戻るといったような雇用形態もとれるようにしています。

しかし、保育士の賃金は仕事内容からみて、満足できるものではないかもしれませんね。慢性的な保育士

不足の要因のひとつでもありますので、改善していきたいと思っています。

保育園を利用している保護 者やこれから利用したいと 思っているお母さんに伝え たいことは

預けることに対して罪悪感を持たないでください。保育園では子ども達が安全に楽しく過ごせるように努力しています。ご家庭でもその責任を果たしていただければ、大変うれしく思います。

そして、仕事とのバランスを上手にとつて、子育てを楽しんで欲しいですね。例えば、時間に追われて忙しい一週間だった時の週末は、遠出をしないで近くの公園などで過ごす方が、子どもにとってはリフレッシュになります。子どもも保護者同様に休憩や休日が必要だと思えます。

最後に

今、少し気になるのは、毎日家で一日中子どもと過ごしているお母さんのことです。リフレッシュの時間を持ち、子育てを楽しんでいるのかなど。子育てをしている人が幸せを感じれば、子どもも幸せになります。保護者としてその応援ができればと思っています。

蕨市協働事業提案制度の採択事業決定！

昨年度から始まった蕨市協働事業提案制度とは、市民活動団体がその専門性や柔軟性を活かした事業を市に提案し、協働で実施し地域の課題解決を図る制度です。

今回5事業の応募があり採択された4事業のうち、男女共同参画に関わる2事業をご案内します。

①デートDV防止啓発事業

提案者：蕨市男女平等推進市民会議

平成27年度に市内中学校において、デートDV防止の啓発事業が実施されます。

②女性の多様な働き方を支援する事業

一夢を形に！自己実現へ向けた具体的な取り組みへの支援—

提案者：NPO法人子育て応援クラブむくむく
キャリアや特技・趣味を活かした起業を目指す女性を応援するための起業勉強会、交流会、起業相談が本年度開催されています。

男女共同参画地域推進モデル地区

北町地区の取り組み

平成26年6月から2年間、北町地域をモデル地区に指定しました。6月には講演会「男女共同参画の視点に立った地域防災」を開催、コミュニティだよりへのコラム掲載を始めました。男性が共に参加できる事業を開催し男女共同参画のまちづくりを進めています。



浅野幸子先生の講演会は大盛況
(北町公民館)

パープルリボン展 11月12日～25日 北町公民館

「女性に対する暴力をなくす運動」に合わせて、公民館利用団体「WICA」によるパープルリボンの展示とマンガでデートDVを解説したパネルを展示します。どうぞお越しください。

女性の心と生き方相談

夫婦や子どものこと 夫・恋人からの暴力
仕事・職場のこと 近隣との関係のこと
性や体の悩み 自分自身のこと

女性フェミニストカウンセラーが、あなたの心の整理をお手伝いしながら、一緒に解決の糸口を探していきます。事前予約制ですので、まずはお電話ください。

(相談時間は、1人50分間)

毎月第1～4金曜日 13:30～16:30

予約・お問合せ先 市民活動推進室 Tel.048-433-7745

※男性からのご相談は、市民相談でお受けいたします。相談先は同上。

女性登用-蕨市の現状は？

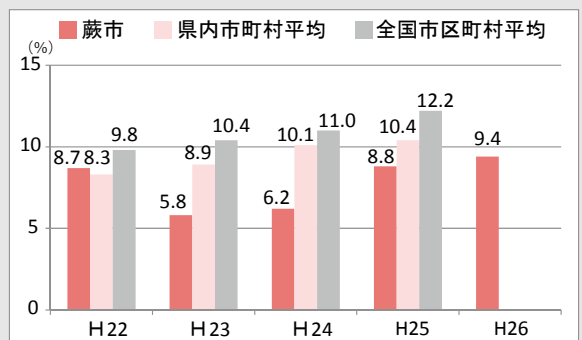
男女共同参画の進み具合を示す一つに審議会等の女性登用率と地方公共団体の女性管理職の割合があります。市では審議会等の女性委員の割合を平成35年度までに40%とすることを目指しています。

審議会の女性委員の登用状況

平成	審議会等の総数 (a)	うち女性を含むもの (b)	比率 (b)/(a) (%)	委員総数 (c)	うち女性委員数 (d)	比率 (d)/(c) (%)
26年度	43	38	88.3	694	252	36.3
25年度	45	38	84.4	708	239	33.8
24年度	45	38	84.4	711	240	33.8
23年度	46	42	91.3	728	245	33.7
22年度	45	43	95.5	728	247	33.9

※審議会とは、市制推進にあたって特定の内容を市民や各種団体の意見を反映するために、法律等に基づいて設置されたものをいいます。

地方公共団体の管理職に占める女性の割合



※管理職とは課長及びこれに相当する職以上とします。
※H26年度 県内・全国市町村平均はまだ出ておりません。
※蕨市の状況は、平成26年4月1日を基準としています。

編集後記

人が人として生きていく上での小さな啓発活動が大きな国を動かし始めたことを心から感じる記事を読みました。女性の活動を推進する為、対象を女性に絞った補助金を2015年度に創設する方針！また起業の補助金制度で申請者が女性の場合は、補助金の上乘せ！とありました。これからもこの「パートナー」を通して男女共同参画を進めていきます。(K)

パートナー第47号

二〇一四年十一月一日発行

企画編集 パートナー編集委員会

(蕨市市民生活部市民活動推進室)

編集委員 大石圭子 加藤光男 蔵迫祥子

竹口素弘 新妻朋子 杉山節子

〒335-1801

蕨市中央5-14-15

電話 048-433-7745

Eメール siminst@city.warabi.saitama.jp

第6回 イクメン・料理男子フォトコンテスト

結果発表

今回はイクメン部門22点、料理男子部門8点の作品が寄せられました。市民投票や審査員選考の結果、ご覧の作品が選ばれました。ご応募ありがとうございました。

料理男子大賞

SHUN'S キッチン2

あんどようこ
安藤洋子さん

ぼく、しゅんぺい。
5さい。
きょうのおひるは
ホットケーキだよ。
みんなでなかよく
たべようね。



イクメン優秀賞



一緒にあ〜ん とだようこ 戸田陽子さん

息子に離乳食を食べさせているパパ。自分も負けじと大きな口を開けている姿がほほえましかったです。

イクメン優秀賞



パパ〜!だ〜いすきっ♪ たむらともみ 田村知美さん

ディズニーランドの長〜い行列も、二人にはとっても楽しい時間のようでした♪

イクメン大賞



全員 父ちゃんに 乗っかれー!

ひらのけんたろう
平野健太郎さん

5人の子供に「父ちゃんすげえ!」って思われたいから頑張った一枚。毎日、家事もこなし。育児も楽しむイクメン父ちゃん。写真はリモコンで自分撮り。